



フラインドサッカー体験教室

教育委員会、人権教育研究協議会



▲アイマスクをして体験する子どもたち

子どもたちは「ボール運びが不安で難しかった」「声かけがうまく伝えられなかった」など、体験の感想を話してくれました。指導者からは子どもたちに「日常生活でも声のコミュニケーションを大切に、今日体験して感じたことを生かしてほしい。まちで白い杖を持つてい



▲兵庫サムライスターズと長野FCレインボーの白熱した交流試合も行われました。

子どもたちに視覚に障害をもつ人への理解を深めてもらうとフラインドサッカー体験教室が2月1日、三原健康広場で開かれました。目隠しして、鈴が入ったボールを蹴って行うフラインドサッカーは、視覚障害者と健常者が同じフィールドでプレーできる競技で、パラリンピックの公式種目にもなっています。体験教室では、市内の小中学生133人がアイマスクをして、かけ声とボールの鈴の音をたよりにドリブルしたり、ゴールめがけてシュートしたりして体験しました。

阿万保育所で緑花学習教室

子どもたちの感性や五感を育む



▲優しく花の苗を植える園児たち

花づくりを通して心やさしく感性豊かな子どもたちに育ってほしいと「緑花学習教室」が1月14日、阿万保育所で行われました。

この教室は淡路県民局が主催する出前講座として開かれ、緑花活動に取り組む「緑のパトロール隊」の人たちの指導で、地域の更正保護女性会の人たちも協力して行われました。園児たちはプランターに土と肥料を混ぜ、マーガレットや



▲植えられたマーガレットなどの花

中1へのギャップを解消

6年生の理科合同授業

青少年交流の家、教育委員会

小学校から中学校に進学する児童がスムーズに新しい学校生活に入れるように各中学校区では体験入学などの取り組みが進められています。2月14日、南淡地区6校の小学6年生144人が青少年交流の家に集まって、理科の合同授業を受けました。当日は、吉備国際大学の教授や南あわじ地学の会の人による専門的な授業に、児童たち



▲興味深く真剣に話を聞く児童たち(上) 実物を見ながらの観察授業(下)

は興味深く聞き入って知的好奇心を高めていました。さらに、グループで課題に取り組んで、仲間づくりのきっかけとなるコミュニケーションを培う実習や、昼食を一緒にするなどして、有意

義な時間を過ごしました。中学校で共に過ごす同級生との学習や活動を通じて、児童たちは次第に笑顔を増して交流が深まってきました。

保育所合同、南あわじ市の良さ探訪

ちどり、阿万、灘保育所



▲淡路人形座で戎さんとふれあう園児たち

ちどり保育所、阿万保育所、灘保育所の4・5歳児66人が1月14日、市の良さ探訪の一環として、伝統芸能「淡路人形浄瑠璃」を観劇しました。園児たちは、人形の頭や手の動きで表情を表現する面白さに食い入るように観ていました。その後、豪快な鳴門の渦潮を観潮し、子どもたちは南あわじの素晴らしい歴史や自然に触れることができた一日でした。

いぶし瓦の銀さん、節分プロジェクト

商工会青年部



▲福良保育園の前に現れた鬼役に扮したいぶし瓦の銀さん

節分にあわせて1月29日、2月3日、商工会青年部の鬼瓦のご当地キャラクター「いぶし瓦の銀さん」が鬼役に扮して市内幼稚園、保育所を訪問。子どもたちと節分の豆まきを楽しみました。1月31日、福良保育園では子どもたちが自分たちで作った鬼のお面をかぶり、豆入れを首から下げて銀さんの登場を待ちわびていました。そこに黒いマントを着た目つきの悪い銀さんが登場。子どもたちは

「鬼は外」と大きな声をあげながら一生懸命に豆を投げていました。目つき悪い鬼役の銀さんを退治した後には、いつもの銀さんが現われ、子どもたちからの「銀さんは何歳ですか」「好きな食べ物は何ですか」などの質問に答えながら楽しい時間を過ごしました。商工会青年部銀さん委員会の谷池隆宏委員長(松帆)は「鬼つながらで銀さんのPR活動の一環として節分プロジェクトをスタート。知名度が上がってきたことをうれしく思う」と話してくれました。

第17回慶野松原プロポーズ瓦コンテスト

瓦に刻む変わらぬ(瓦ぬ)愛と絆 淡路島観光協会



▲プロポーズ街道に飾られた作品を審査

慶野松原の散策道「プロポーズ街道」で2月13日、特産の瓦にカップルの愛や家族の絆を刻んだプロポーズ瓦のコンテストが行われました。



▲最優秀作品に選ばれたプロポーズ瓦

907組の作品が制作されて17回を迎えた今回は昨年作られた39作品のうち26組が応募。その中から優秀作品の5作品が選ばれ、入賞者には「淡路島3年とらふぐ」のセットが記念品として贈られました。

振り込め詐欺防止訓練を実施

淡陽信用組合福良支店

振り込め詐欺を未然に防ぐと2月7日、島内3か所の金融機関で訓練が行われ、市内でも淡陽信用組合福良支店で行われました。昨年度、県内においてキャンセル詐欺などの特殊詐欺による被害総額が約20億円にも達したことを受け、県警が「県下一斉声かけ訓練日」を指定したことにより実施されました。この日は、同信用組合職員や警察関係者、婦人会のメン

バーら約40人が参加して訓練が行われました。客役に扮した警察官が「儲かる競馬情報を手に入れるために会員になる必要がある。急いで入金しないといけない。すぐにお金を引き出したい」と窓口職員に伝え、職員は「詳しく事情を聴かせてください」と手順を確認しながら訓練を行いました。訓練後、同信用組合福良支店の片山浩史支店長は「訓練を通じて職員の意識が高まり、



▲出金理由を尋ねる金融機関職員